

令和7年3月14日審議

1

申請者	精神科医長	西田 拓司
2024-37 患者学習プログラムMOSESの有用性に関する研究		
研究の概要	てんかん患者はしばしばてんかんに関する知識が十分でないことが知られている。適切な知識の習得には確立された患者学習プログラムが必須である。MOSES(モーゼス)は既に海外で有用性の評価が定まっている。本研究では、日本語版MOSESの有用性を評価することを目的とする。	
判定	承認	本申請は承認された。

2

申請者	精神科医長	西田 拓司
2024-38 てんかん外科治療前後の精神医学・認知・心理・社会的問題に関する研究		
研究の概要	てんかん患者には様々な精神医学的、認知的、心理社会的問題がみられる。外科治療はてんかん治療の一つとして確立されているが、術前術後にどのような精神医学的、認知的、心理社会的問題がみられるか十分に分かっていない。本研究は当院で外科治療を受ける患者の術前術後の精神医学的、認知的、心理社会的問題を明らかにし、適切な介入を行うことを目的とする。	
判定	承認	本申請は承認された。

3

申請者	精神科医長	西田 拓司
2024-39 学校教員のてんかんに関する知識と考え方のアンケート調査		
研究の概要	てんかんのある児童や生徒が安全に充実した学校生活を送るためには、学校教員が十分なてんかんに関する知識をもち、児童や生徒に対してポジティブな考え方で接することが重要と考えられる。学校教員に対するてんかんの講演会が教員の知識の向上と考え方の変化に有用であるか調査する。	
判定	承認	本申請は承認された。

4

申請者	精神科医長	西田 拓司
2024-40 てんかんでみられる精神症状のグルタミン酸受容体自己免疫学的機序に関する研究		
研究の概要	てんかんには幻覚、妄想、うつ症状、不安症状など様々な精神症状が出現するが、その機序は不明である。近年、辺縁系脳炎においてNMDA型グルタミン酸受容体抗体に対する自己抗体が発見され、辺縁系脳炎の精神症状発現にグルタミン酸受容体自己免疫学的機序が推定されている。本研究では、てんかんでみられる精神症状にグルタミン酸受容体自己免疫学的機序が関係する可能性を明らかにする。	
判定	承認	本申請は承認された。